

# 地域活動で 魅力的なまちづくり

頻発する自然災害や多様化する犯罪、さらに新型コロナウイルスの感染拡大など、時代の移り変わりとともに私たちの暮らしを取り巻く課題も少しずつ変わってきました。今回は地域活動の「今」にクローズアップ。

ぜひこの機会に「あなたのまち」の活動について興味を持ち、一緒にまちづくりに参加してみませんか。

## 地域のコミュニティを強くする、さまざまな試み。

住民同士がつながりを持ち、「より住みやすいまち」にするために欠かせない地域活動。最近では若い人たちも参加しやすいように、コミュニケーションアプリを使った回覧板の導入や、オンライン会議の開催が増えているのをご存知ですか？

また、知恵を出し合い、各地域が抱える課題解決に取り組んでいる事例も多数！今回は、変化に柔軟に対応し、より良い地域コミュニティ形成のために頑張っている皆さんを紹介します。

### 町内自治会

地域に共通する課題を協力して解決し、より豊かな地域づくりを進めていくために組織された自治組織です。防災訓練や地域清掃、お祭りや運動会など活動は多岐にわたります。

#### コロナ禍を機に オンライン会議に挑戦！

新型コロナウイルスの影響で自治会会議の開催ができないことが続いた時、帯山西校区第4町内自治会では「オンライン会議をやってみようか」という声が上がりました。その際、「やりたい！」と一番に手を挙げたのが平野さんです。

自治会長の手を借りながら接続の練習を重ね、自身が習得した後は他の役員のサポートも率先して行ったそう。その成果があらわれ、これまで行われた2回のオンライン会議は全員が滞りなく参加できたとか。「これからもいろんなことに挑戦し、地域をひとつにしていきたい」と意気込みます。

今後は、グループLINEを使った役員連絡網を作るとのことで、「自治会の連絡もますます取りやすくなるから楽しみ」と笑顔で話してくれました。

←9人の役員全員が参加しスムーズに進行された第2回目オンライン会議



帯山西校区第4町内自治会  
副会長  
平野 由喜子さん



### 防犯協会

警察や関係機関・団体、地域の防犯ボランティアなどと力を合わせ、「犯罪のない、安全で安心して暮らせる明るいまちづくり」の実現をめざしています。

#### 老人クラブ連合会と 連携し防犯強化

向山校区では20年以上前から毎月2回、防犯協会会員を中心に校区一斉パトロールを行っています。数年前には、裏路地を重点的に計10個の防犯カメラを設置。提供した映像がきっかけで犯人逮捕につながった事例もあり、「地域防犯に役立ててうれしい」と石坂さんも胸を張ります。

昨年からは、老人クラブ連合会におそろいの防犯ベストを提供し連携を要請。犬の散歩など外出時に着用してもらうなど、「ながら防犯」につなげているそうです。

「新型コロナの影響で不要不急の外出を自粛する人が増えた結果、住民の目が届きにくくなり、わいせつ・不審な声かけ事案が増えています。見守る目を増やすことで、安心して暮らせる校区にしていきたい」と話してくれました。

←交通事故が発生しやすい交差点は、カーブミラーの角度も細かく確認



向山校区防犯協会  
会長  
石坂 敏明さん



### 消防団

消防組織法に基づいて各市町村に設置される消防機関です。常勤の消防職員が勤務する消防署とは異なり、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、その地域での経験を生かした活動を行います。また、運動会の警備や夏祭りの出店など、いろんな視点で地域を見守ります。

#### 他校区の団員とタッグを組み 女性消防団操法大会出場をめざす

中心市街地にあるホテルでフロントスタッフとして働いている山口さんは、職場の先輩に誘われ昨年4月に入団しました。「一緒にやらない？」と誘われた時は「え、私？女性でも務まるの？」という不安でいっぱいだったそうですが、「城東校区は団員23人中5人が女性だから大丈夫」という声に背中を押されて挑戦。年末の消防巡回などを経験した今は「地域への愛着が増し、一歩踏み出してよかった」とほほ笑みます。目標は、隣接する校区の女性団員とチームを組んで参加する操法大会への出場。「自主的に基礎体力づくりに取り組み、毎日が充実しています！」。



消防団第16分団  
城東校区  
団員 山口 千尋さん



←AEDを使った救命訓練。素早い判断と対応が必要なので確認に余念がない

#### 9月の大型台風接近時にも出動。 地域をよく知る、防災の要

上通りアーケードから新市街までの中心市街地エリアを担当する城東校区。密集するビルの間もいち早く駆けつけられるように、コンパクトな軽車両ポンプ車を所有する数少ない分団です。分団長の今池さんによると「小さいのに装備が充実しているのが特徴。いざというときに使いこなせるよう、コロナ禍前は毎月、消防署で訓練を行っていた」そうです。



消防団第16分団  
城東校区  
分団長 今池 知さん



←鉄筋カッターなど、ポンプ車に搭載されている特殊機材の使い方を定期訓練で習得

救助活動だけでなく、台風や大雨で避難所が開設される際は広報のために巡回。地道な活動が早めの避難行動につながっています。「これからも『自分の地域は自分で守る』という思いで力を合わせていきたい」と話してくれました。